

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396000040		
法人名	医療法人 翔友会		
事業所名	グループホームおり姫2 1階		
所在地	愛知県額田郡幸田町大字大草字山添9番地		
自己評価作成日	令和3年11月2日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2396000040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2396000040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年12月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

要介護1～要介護5までの多種多様な入居者様がみえるため一緒に何かをしたり、楽しんだりすることは難しいですがそれでも、できる限り催し物を開催したり利用者個人の楽しみや張り合い、役割がある生活が送れるように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表の意向もあって、コロナ下にあっても対面での家族面会を認めている。緊急事態宣言下においてもその姿勢を崩していない。「利用者の残りの人生を制限せずに支援したい」との代表の思いは、理念である「共に生きる」、「開放的な介護」にも通じる。その理念を、より周知徹底するために、大きな文字に書き換えてホーム内に掲示している。  
経営母体が医療法人であるだけに、徹底したコロナ対策を講じてのホーム運営である。認められている家族面会は、玄関の外で行われている。「ひと時の団らんをゆっくり過ごしてほしい」との配慮であるが、3密を避けるための真の目的もあって、面会場所にはテーブルと椅子が用意されている。利用者と家族は、一定の距離をとって(テーブルを挟んで)会話を楽しむこととなる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」「開放的な介護」が基礎理念です。掲示板に理念を張り出し、いつでも確認できるようになっています。	職員に、より理念を徹底させようと、大きな文字に作り直して掲示している。家族の面会も多く、理念に沿った「開放的な介護」が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前はお祭りなど地域との交流の場はありましたが現在は外出やイベントを自粛しているのでできていません。	地域行事が軒並み中止となり、地域交流の目玉であるホームの「夏祭り」も2年連続で中止を余儀なくされた。町内会の回覧板で、地域の状況や情報を把握している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで運営推進会議を中止しています。	行政(町)の方針に従って、運営推進会議は書面開催となっている。町役場の担当者の意向もあり、会議は隣接の姉妹ホーム(グループホームおり姫)との合同開催である。	運営推進会議の目的の一つに「メンバーによる評価」がある。書面開催であっても、目標達成計画の進捗状況(取組み)を議事録に記載して報告することが求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険グループの担当者とは時より空き状況や近況報告をしているところもあり虐待されて方の保護として緊急受け入れの連絡があつたりします。	行政とは良好な関係を構築しており、運営面や家族関係で相談に乗ってもらうこともある。町、地域包括支援センターの依頼を受け、緊急一時保護の受け入れもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。定期的に身体拘束に関して研修を行っています。	3ヶ月ごとに「身体拘束検討会」を行い、議事録に残している。虐待や身体拘束に関する職員研修は、毎年1回の定期開催である。現時点では、身体拘束に該当する事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	疑わしい場合は管理者に報告しています。その後の対応に関しても管理者と本部で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は知っていますが現在入居されている利用者で後見人制度を利用している方がいないので学ぶ機会はないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をしています。入居後も契約に関して問い合わせがあれば随時説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等あれが管理者に随時報告しています。全ての要望やご意見を反映させることは難しいですが、法人としてできる限りの対応はしています。	「家族会」が組織されている。運営推進会議と併催されていたが、コロナ禍によって現在は中断している。法人代表の意向で、緊急事態宣言下でも制限付きで家族面会を認めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望、検討してほしいことなど随時管理者には話しています。その場で解決できることもあれば、法人として検討することもあり内容によってですがケースバイケースです。	3密を避けるため、毎月の職員会議を書面開催として行っている。事前に職員から意見を募り、法人本部からの連絡事項等とともに、管理者が回答を職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前手当のことで相談したことがあり、今すぐにはできないがと言われ、あきらめていましたが数カ月後に給与が改善されました。また勤務時間や労働条件なども個別で対応はしてくれます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修には参加できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流したりネットワークづくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他福祉サービスを利用していれば、連絡を取り情報収集に努めています。また面談時には本人や家族の要望を確認しながら進めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に要望や困っていることなど聞き取りしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他福祉サービスを利用していれば、連絡し今必要なサービス利用について話を伺ったりすることもあります。また家族の要望があれば訪問リハビリ等の検討も随時行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることは食器拭きや洗濯など一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に生活の様子等を報告しています。必要に応じご家族にも協力していただくこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで外出は控えています。事前に面会の予約をしていただければ面会はできますが人数制限はしています。	コロナ禍によって、馴染みの人や場所の支援が困難になっている。そのような中でも、友人と手紙のやり取りをする利用者がある。手紙本文や宛名を自筆で書き、依頼された職員が投函している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性もあるのでフロア異動をすることもあります。食事の座席も配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば可能な限り対応はしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あれがほしい。こうしてほしい。等要望があれば随時家族に連絡して検討しています。また訴えることができない場合でもあれがあったらお尻が痛くなるかもねなど検討しています。	約半数の利用者が、自らの意思を表出することが困難な状態である。利用者の入居期間や職員の経験年数によって差異はあるが、利用者の表情やしぐさ、様子等から意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、家族構成など関係者から聞いたりをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調やADLの状態に応じ無理なく過ごしていただけるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には事前に聞き取り要望や心配事などを把握するようにしています。また状態が変われば随時介護計画も変更しています。	「介護計画の目標を見て、利用者の顔が浮かぶ」ことを目標達成計画に掲げて取り組んでいる。サービス担当者会議には、管理者、介護支援専門員の他に、看護師や一般職員の多数が参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実施状況は介護記録を確認、共有し見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族のニーズに応じられる限りは対応をするようにしています。また事業所からご家族に訪問リハビリ等提案することもあります。別料金が発生するためご家族の意向の沿うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握まではできていません。ただ安全に楽しく暮らすことができるようには努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に内科受診をどうするか家族と相談して決めています。また必要に応じ整形外科や皮膚科など通院することも考え家族と相談して決めています。	利用者の多くが、ホーム協力医をかかりつけ医として月に2回の訪問診療(内科、歯科)を受けている。他科受診等の通院付き添いは家族対応を原則としているが、管理者や看護師が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケガや体調不良、いつもと違うと感じた時には看護師や管理者に報告しています。看護師や管理者が家族に連絡し受診するかどうか決めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供しています。入院中は定期的に病院、家族と連絡を取り、状況確認、退院の目処等話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から打診があれば今後の方針を家族と話し合いをする場を設けるようにしています。また方針が決まっても、家族の方針がその都度変わることもあり、その時は随時話し合いをしています。	利用者、家族の約半数がホームでの看取りを希望している。条件が合えば看取りを行う方針であるが、過去5年間で看取り経験はない。常に、家族の意向(看取り希望の変化)を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、応急処置は対応できますが定期的に訓練する機会はないです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。また同じ敷地内にグループホームおり姫があり何かあればお互いに協力するようにしています。	ハザードマップでは、警戒無指定地域に立地している。管理者は前職(他法人)で水害罹災の経験があり、緊急時に対応するための豊富な知識を持ち合わせている。食料備蓄は5日間分を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じわかりやすいように声かけをしています。	理念の「共生」や「開放的な介護」の実践が、利用者と職員との馴れ合いにならないよう、職員は節度を持って支援にあたっている。利用者の呼称は、「苗字にさん付け」を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定できるように選択性にしたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内に日課はありますが強制はしていません。部屋で休んだり、読書やテレビを見て過ごされる方も見える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族に持ってきてもらっているのものでその人らしいおしゃれをされていると思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備できる利用者はいませんが片付けだけは手伝ってくださる利用者もみえるので一緒に作業しています。	3食とも配食業者の食事を提供している。利用者に合わせたキザミやミキサー食にも対応があり、職員は温めたりトロミをつける等の支援を行っている。イベント時は手作りの食事を楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別で食事量、食事形態を変更し少しでも食べるように努めています。食事することが嫌い、偏食、少食で食べれていない場合には主治医に報告しエンシュアやラコールの処方もしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施しています。歯科からのブラッシングの方法や入れ歯の取り扱い、個別で注意すべき点の指示もあり、指示通り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄ができるように支援しています。また排泄チェック表を確認しながら声かけ、誘導するタイミング図っています。	トイレでの排泄を基本として支援しており、ポータブルトイレの居室持ち込みはない。夜間の排泄介助は利用者に合わせ、「睡眠重視でパッド交換」や、「定期的なトイレ誘導」等で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しはもちろん、かんてんを汁物に入れたりしています。それでも便秘が改善されない場合は主治医に相談して整腸剤や下剤も処方してもらい排便のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は施設側が決めていますが入浴する順番は体調や気分をみて入浴してもらっています。	週に2回の入浴支援を行っている。軽い入浴拒否の利用者がいるが、無理強いせずに日を改めて入浴に繋げている。頂き物があれば、柚子湯等の季節の湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調等、年齢的に一日中起きていることが難しい場合などその時に応じ昼寝をしたり、早めに就寝したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入しており、契約している薬剤師が利用者の薬は管理しています。薬の変更や副作用、注意点等の指示は随時あり、その都度把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲食店を経営していた方は食器拭きや机ふき、計算ドリルなど喜んで参加されます。またタバコを吸っている利用者もみえます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナで外出は控えています。	外出自粛の措置が継続されており、長い間外出支援が中断している。中庭や駐車場で散歩が日課となっており、家族面会(玄関の外にテーブルと椅子を設置)が外気と触れる機会となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に貴重品や現金の所持の取り扱いはしていません。ただお金をもっていないと落ち着かない、不穏になる等入居時の調査で必要な場合は無くなってもいいことをご家族に了承して頂いた上で許可しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手方の迷惑にならない時間帯に本人が希望すれば対応しています。現在定期的に友人や家族にハガキ出している利用者もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ室内の温度調節、室内の照明を調整はしています。防災の観点から壁には作品の展示は控えています。	コロナ禍により、共有空間への立ち入りは自粛した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファもあり好きな場所で過ごせれるようになっていきます。各階に夫婦で入居されている方もみえ、一緒にフロアで過ごされることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたもの・使い慣れたものを持ってきていただけるようにご家族にはお願いしています。	コロナ禍により、利用者居室の見学は自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自分のお部屋がわからない利用者のために「トイレ」「〇〇さんのお部屋です」と張り紙をしたりしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2396000040		
法人名	医療法人 翔友会		
事業所名	グループホームおり姫2 2階		
所在地	愛知県額田郡幸田町大字大草字山添9番地		
自己評価作成日	令和3年11月2日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2396000040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2396000040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年12月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

要介護1～要介護5までの多種多様な入居者様がみえるため一緒に何かをしたり、楽しんだりすることは難しいですがそれでも、できる限り催し物を開催したり利用者個人の楽しみや張り合い、役割がある生活が送れるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」「開放的な介護」が基礎理念です。掲示板に理念を張り出し、いつでも確認できるようになっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前はお祭りなど地域との交流の場はありましたが現在は外出やイベントを自粛しているののでできていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで運営推進会議を中止しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険グループの担当者とは時より空き状況や近況報告をしているところもあり虐待されて方の保護として緊急受け入れの連絡があったりします。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。定期的に身体拘束に関して研修を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	疑わしい場合は管理者に報告しています。その後の対応に関しても管理者と本部で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は知っていますが現在入居されている利用者で後見人制度を利用している方がいないので学ぶ機会はないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をしています。入居後も契約に関して問い合わせがあれば随時説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等あれが管理者に随時報告しています。全ての要望やご意見を反映させることは難しいですが、法人としてできる限りの対応はしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望、検討してほしいことなど随時管理者には話しています。その場で解決できることもあれば、法人として検討することもあり内容によってですがケースバイケースです。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前手当のことで相談したことがあり、今すぐにはできないがと言われ、あきらめていましたが数カ月後に給与が改善されました。また勤務時間や労働条件なども個別で対応はしてくれます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修には参加できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流したりネットワークづくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他福祉サービスを利用していれば、連絡を取り情報収集に努めています。また面談時には本人や家族の要望を確認しながら進めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に要望や困っていることなど聞き取りしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他福祉サービスを利用していれば、連絡し今必要なサービス利用について話を伺ったりすることもあります。また家族の要望があれば訪問リハビリ等の検討も随時行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることは食器拭きや洗濯など一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に生活の様子等を報告しています。必要に応じご家族にも協力していただくこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで外出は控えています。事前に面会の予約をしていただければ面会はできますが人数制限はしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性もあるのでフロア異動をすることもあります。食事の座席も配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば可能な限り対応はしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あれがほしい。こうしてほしい。等要望があれば随時家族に連絡して検討しています。また訴えることができない場合でもあれがあったらお尻が痛くなるかもねなど検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、家族構成など関係者から聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調やADLの状態に応じ無理なく過ごしていただけるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には事前に聞き取り要望や心配事など把握するようにしています。また状態が変われば随時介護計画も変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実施状況は介護記録を確認、共有し見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族のニーズに応じできる限りは対応をするようにしています。また事業所からご家族に訪問リハビリ等提案することもあります。別料金が発生するためご家族の意向の沿うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握まではできていません。ただ安全に楽しく暮らすことができるようには努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に内科受診をどうするか家族と相談して決めています。また必要に応じ整形外科や皮膚科など通院することも考え家族と相談して決めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケガや体調不良、いつもと違うと感じた時には看護師や管理者に報告しています。看護師や管理者が家族に連絡し受診するかどうか決めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供しています。入院中は定期的に病院、家族と連絡を取り、状況確認、退院の目処等話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から打診があれば今後の方針を家族と話し合いをする場を設けるようにしています。また方針が決まっても、家族の方針がその都度変わることもあり、その時は随時話し合いをしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、応急処置は対応できますが定期的に訓練する機会はないです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。また同じ敷地内にグループホームおり姫があり何かあればお互いに協力するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じわかりやすいように声かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定できるように選択性にしたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内に日課はありますが強制はしていません。部屋で休んだり、読書やテレビを見て過ごされる方も見える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族に持ってきてもらっているのその人らしいおしゃれをされていると思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備できる利用者はいませんが片付けだけは手伝ってくださる利用者もみえるので一緒に作業しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別で食事量、食事形態を変更し少しでも食べるように努めています。食事することが嫌い、偏食、少食で食べれていない場合には主治医に報告しエンシュアやラコールの処方もしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施しています。歯科からのブラッシングの方法や入れ歯の取り扱い、個別で注意すべき点の指示もあり、指示通り支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄ができるように支援しています。また排泄チェック表を確認しながら声かけ、誘導するタイミング図っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しはもちろん、かんてんを汁物に入れたりしています。それでも便秘が改善されない場合は主治医に相談して整腸剤や下剤も処方してもらい排便のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は施設側が決めていますが入浴する順番は体調や気分をみて入浴してもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調等、年齢的に一日中起きていることが難しい場合などその時に応じ昼寝をしたり、早めに就寝したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入しており、契約している薬剤師が利用者の薬は管理しています。薬の変更や副作用、注意点等の指示は随時あり、その都度把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲食店を経営していた方は食器拭きや机ふき、計算ドリルなど喜んで参加されます。またタバコを吸っている利用者もみえます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナで外出は控えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に貴重品や現金の所持の取り扱いはしていません。ただお金をもっていないと落ち着かない、不穏になる等入居時の調査で必要な場合は無くなってもいいことをご家族に了承して頂いた上で許可しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手方の迷惑にならない時間帯に本人が希望すれば対応しています。現在定期的に友人や家族にハガキ出している利用者もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ室内の温度調節、室内の照明を調整はしています。防災の観点から壁には作品の展示は控えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファもあり好きな場所で過ごせれるようになっていきます。各階に夫婦で入居されている方もみえ、一緒にフロアで過ごされることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたもの・使い慣れたものを持ってきていただけるようにご家族にはお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自分のお部屋がわからない利用者のために「トイレ」「〇〇さんのお部屋です」と張り紙をしたりしています。		